

指導書による教員働き方改革

岐阜県教販からの提案

新しい学習指導要領が、小学校では 2020 年度、中学校では 2021 年度から全面実施され教科書と指導書が改訂されます。

岐阜県下の公立学校では最近の教科書改訂時における教師用指導書の購入は学年に 1 セットが通例となっていますが、指導書は教師一人につき一セット購入することによって授業の準備と組み立てが速やかにできます。特に中学においては、教員ごとに指導書を用意することによって授業準備やプラン作成がよりスムーズになってきます。



岐阜県の教育委員会では、平成 29 年度から「教職員の働き方改革プラン」を策定し、教職員の勤務の適正化に向けて取り組んでいます。新学習指導要領への対応や、第 3 次岐阜県教育ビジョンに掲げた施策の推進など、学校教育の更なる充実のため、中学における専科先生ごとに指導書を準備することを提案します。

寺脇研(てらわき けん、1952 年)元文部官僚。

星槎大学大学院教育学研究科客員教授。官僚時代には文部省 NO.1 の論客でならし、ゆとり教育の広報を担った。福岡県福岡市出身

寺脇研氏も推奨

教員の働き方改革の議論が起こってから久しい。肥大化する一方の教員業務、学校業務の見直しが提案された。教員の負担を減らすための確実な対処は、教員全体の数を増やして一人当たりの労働量を減らすことである。しかし、教員増は多大な予算を必要とするため、財政当局の理解を得ることが極めて難しい。ならば次善の策として教員増ほどの予算を必要としない手立てを考えてみてはどうだろう。IT 機器を使って効率を上げるのも一つの手段ではあるが、昔から学校現場で古くから使われている教師用指導書を利用することで同様の効果を得ることができる。授業準備は教員にとって最も重要な仕事である。中央教育審議会答申が整理して、これだけは確実にやってほしいと明示した「教員の仕事」でも、いの一番に「授業の準備」が記されている。その際に大きな役割を果たすのが教師用指導書なのだが、多くの学校現場ではこれが教員一人に一冊用意されていない。そのために、複数の教員で共用する形になっている。もしこれが、もっとたくさん用意されていれば、授業準備をスムーズに進めることができるようになり、労働時間を減少させる効果を生むに違いない。場合によっては、自分に割り当てられた指導書を自宅に持ち帰ることもできるわけで、それぞれのペースで授業準備の時間を取れる。